レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2026 年 4 月 1 日

㈲エイブル　生コン工場　殿

有限会社　エイブル　生コン工場
広島県三次市高杉町1470番地の３
TEL:0824-66-2234　FAX:0824-66-2909
配合計画者：上松　寛昭

工事名称	自社
所在地	三次市四拾貫町　地内
納入予定時期	
本配合の適用期間	標準配合　4月1日～6月20日　　9月11日～11月20日（標準配合）
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普　通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	－	コンクリートの温度	最高・最低 － ℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	－ %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	空気量	4.5±1.5 %	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm

使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社			密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－
混和材	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq %	－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	モルタルバー法	5㎜以下	2.65	2.57	2.58	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5㎜以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20～10㎜	6.9	—	2.64	0.5±0.5
	②	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	13～5㎜	6.1	—	2.63	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10L	種類	ＡＥ減水剤	Na_2Oeq % 1.0
混和剤②		－		－	－

細骨材の塩化物量	① 0.00 %	② － %	水の種類	上澄み水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	スラッジ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	488	335		649	278		3.40	

水セメント比	52.0 %	水結合材比	%	細骨材率	47.3 %

備考

骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普　通	27	12	20	BB

変動係数	V	当工場の実績により	10　%
割増係数	α	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22$　$\alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100\sqrt{3.0}}} = 1.21$　$\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$	α1 ＝ 1.22 α2 ＝ 1.21 α3 ＝ 1.25 α ＝ 1.25
配合強度	m	m ＝ α × SL ＝ 1.25 × 27 ＝ 33.8	33.8　N/㎟
水セメント比	W/C	m ＝ a ＋ b × C/W ＝ -13.40 ＋ 24.70 × C/W $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{33.8 + 13.40} \times 100 = 52.3$	 52.0　%
単位水量	W	当工場の実績により	177 kg/m³
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{177}{52.0} \times 100 = 340$	340 kg/m³
	Cv	Cv ＝ C ÷ 密度 ＝ 340 ÷ 3.04 ＝ 112	112 ℓ/m³
空気量	A	A ＝ 設計容積 × 空気量(%) ＝ 1000 × 4.5(%) ＝ 45	45 ℓ/m³
骨材の絶対容積	Va	Va＝設計容積－(W＋Cv＋A)＝1000－(177＋112＋45)＝666	666 ℓ/m³
細骨材率	s/a	当工場の実績により	47.3　%
単位細骨材量	Sv	Sv＝ Va × s/a(%) ＝ 666 × 47.3(%) ＝ 315	315 ℓ/m³
	Sv1	①Sv1 ＝ Sv × 60(%) ＝ 189	189 ℓ/m³
	Sv2	②Sv2 ＝ Sv × 40(%) ＝ 126	126 ℓ/m³
	S1	①S1 ＝ Sv1 × 密度(2.58) ＝ 488	488 kg/m³
	S2	②S2 ＝ Sv2 × 密度(2.66) ＝ 335	335 kg/m³
単位粗骨材量	Gv	Gv ＝ Va － Sv ＝ 666 － 315 ＝ 351	351 ℓ/m³
	G	G ＝ Gv × 密度(2.64) ＝ 927	927 kg/m³
	G1	①G1 ＝ G × 70(%) ＝ 649	649 kg/m³
	G2	②G2 ＝ G × 30(%) ＝ 278	278 kg/m³
単位混和剤量	AE	AE＝C×添加率(%)＝340×1.00(%)＝3.40	3.40 kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	488	335		649	278		3.40	

水セメント比	52.0　%	水結合材比	%	細骨材率	47.3　%

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2026 年 4 月 1 日

㈲エイブル　生コン工場　殿

有限会社　エイブル　生コン工場
広島県三次市高杉町1470番地の３
TEL:0824-66-2234　FAX:0824-66-2909
配合計画者：上松　寛昭

工事名称	自社
所在地	三次市四拾貫町　地内
納入予定時期	
本配合の適用期間	夏季修正標準配合　6月21日～9月10日（修正標準配合）
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普　通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	－	コンクリートの温度	最高・最低 － ℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	－ %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	空気量	4.5±1.5 %	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm

使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社			密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－
混和材	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq %	－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	モルタルバー法	5㎜以下	2.65	2.57	2.58	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5㎜以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20～10㎜	6.9	—	2.64	0.5±0.5
	②	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	13～5㎜	6.1	—	2.63	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックRV10L	種類	ＡＥ減水剤	Na_2Oeq % 0.9
混和剤②		－		－	－

細骨材の塩化物量	① 0.00 %	② － %	水の種類	上澄み水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	スラッジ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	488	335		649	278		4.42	

水セメント比	52.0 %	水結合材比	%	細骨材率	47.3 %

備考

骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普　通	27	12	20	BB

変動係数	V	当工場の実績により	10　%
割増係数	α	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22$　$\alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100\sqrt{3.0}}} = 1.21$　$\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$	α1 ＝ 1.22 α2 ＝ 1.21 α3 ＝ 1.25 α ＝ 1.25
配合強度	m	m ＝ α × SL ＝ 1.25 × 27 ＝ 33.8	33.8　N/㎟
水セメント比	W/C	m ＝ a ＋ b × C/W ＝ -13.40 ＋ 24.70 × C/W $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{33.8 + 13.40} \times 100 = 52.3$	 52.0　%
単位水量	W	当工場の実績により	177 kg/m³
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{177}{52.0} \times 100 = 340$	340 kg/m³
	Cv	Cv ＝ C ÷ 密度 ＝ 340 ÷ 3.04 ＝ 112	112 ℓ/m³
空気量	A	A ＝ 設計容積 × 空気量(%) ＝ 1000 × 4.5(%) ＝ 45	45 ℓ/m³
骨材の絶対容積	Va	Va＝設計容積－(W＋Cv＋A)＝1000－(177＋112＋45)＝666	666 ℓ/m³
細骨材率	s/a	当工場の実績により	47.3　%
単位細骨材量	Sv	Sv＝ Va × s/a(%) ＝ 666 × 47.3(%) ＝ 315	315 ℓ/m³
	Sv1	①Sv1 ＝ Sv × 60(%) ＝ 189	189 ℓ/m³
	Sv2	②Sv2 ＝ Sv × 40(%) ＝ 126	126 ℓ/m³
	S1	①S1 ＝ Sv1 × 密度(2.58) ＝ 488	488 kg/m³
	S2	②S2 ＝ Sv2 × 密度(2.66) ＝ 335	335 kg/m³
単位粗骨材量	Gv	Gv ＝ Va － Sv ＝ 666 － 315 ＝ 351	351 ℓ/m³
	G	G ＝ Gv × 密度(2.64) ＝ 927	927 kg/m³
	G1	①G1 ＝ G × 70(%) ＝ 649	649 kg/m³
	G2	②G2 ＝ G × 30(%) ＝ 278	278 kg/m³
単位混和剤量	AE	AE＝C×添加率(%)＝340×1.30(%)＝4.42	4.42 kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	488	335		649	278		4.42	

水セメント比	52.0　%	水結合材比	%	細骨材率	47.3　%

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No.

2026 年 4 月 1 日

㈲エイブル　生コン工場　殿

有限会社　エイブル　生コン工場
広島県三次市高杉町1470番地の３
TEL:0824-66-2234　FAX:0824-66-2909
配合計画者：上松　寛昭

工事名称	自社
所在地	三次市四拾貫町　地内
納入予定時期	
本配合の適用期間	冬季修正標準配合　11月21日～3月31日（修正標準配合）
コンクリートの打込み箇所	

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普　通	27	12	20	BB

指定事項（必須）	セメントの種類	呼び方欄に記載	粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載	アルカリシリカ反応抑制対策の方法	ＢＢ
指定事項（任意）	骨材のアルカリシリカ反応性による区分	使用材料欄に記載	軽量コンクリートの単位容積質量	－ kg/m³
	舗装コンクリートの強度試験方法	－	コンクリートの温度	最高･最低 － ℃
	水の種類	使用材料欄に記載	水セメント比及び／又は水結合材比の目標値の上限	－ %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		
	塩化物含有量	0.30 kg/m³以下	単位水量の目標値の上限	－ kg/m³
	呼び強度を保証する材齢	28 日	単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	－ kg/m³
	空気量	4.5±1.5 %	流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	－ cm

使用材料

セメント	生産者名	UBE三菱セメント株式会社			密度 g/cm³	3.04	Na_2Oeq %	－
混和材	製品名	－	種類	－	密度 g/cm³	－	Na_2Oeq %	－

骨材	No.	種類	産地又は品名	ｱﾙｶﾘｼﾘｶ反応性による区分		粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm³		微粒分量の範囲%
				区分	試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	加工砂	島根県仁多郡奥出雲町	A	モルタルバー法	5㎜以下	2.65	2.57	2.58	3.0以下
	②	砕砂	鳥取県日野郡日野町	A	化学法	5㎜以下	2.80	2.64	2.66	3.0±2.0
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－
粗骨材	①	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	20～10㎜	6.9	—	2.64	0.5±0.5
	②	砕石	島根県邑智郡美郷町	A	化学法	13～5㎜	6.1	—	2.63	0.5±0.5
	③	－	－	－	－	－	－	－	－	－

混和剤①	製品名	フローリックSV10L	種類	ＡＥ減水剤	Na_2Oeq % 1.0
混和剤②		－		－	－

細骨材の塩化物量	① 0.00 %	② － %	水の種類	上澄み水	目標ｽﾗｯｼﾞ固形分率	－
回収骨材の使用方法	細骨材	－	粗骨材	－	スラッジ水の使用方法	－

配合表 kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	488	335		649	278		2.72	

水セメント比	52.0 %	水結合材比	%	細骨材率	47.3 %

備考

骨材の質量配合割合，混和剤の使用量については，断りなしに変更する場合がある。

レディーミクストコンクリート配合計算書

配　合　の　設　計　条　件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	ｽﾗﾝﾌﾟ又はｽﾗﾝﾌﾟﾌﾛｰ cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普　通	27	12	20	BB

変動係数	V	当工場の実績により	10　%
割増係数	α	$\alpha 1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \times V}{100}} = 1.22$　$\alpha 2 = \frac{1}{1 - \frac{3.0 \times V}{100\sqrt{3.0}}} = 1.21$　$\alpha 3 = \frac{1.0}{1 - \frac{2.0 \times V}{100}} = 1.25$	α1 ＝ 1.22 α2 ＝ 1.21 α3 ＝ 1.25 α ＝ 1.25
配合強度	m	m ＝ α × SL ＝ 1.25 × 27 ＝ 33.8	33.8　N/㎟
水セメント比	W/C	m ＝ a ＋ b × C/W ＝ -13.40 ＋ 24.70 × C/W $W/C = \frac{b}{m - a} = \frac{24.70}{33.8 + 13.40} \times 100 = 52.3$	 52.0　%
単位水量	W	当工場の実績により	177 kg/m³
単位セメント量	C	$C = \frac{W}{W/C} \times 100 = \frac{177}{52.0} \times 100 = 340$	340 kg/m³
	Cv	Cv ＝ C ÷ 密度 ＝ 340 ÷ 3.04 ＝ 112	112 ℓ/m³
空気量	A	A ＝ 設計容積 × 空気量(%) ＝ 1000 × 4.5(%) ＝ 45	45 ℓ/m³
骨材の絶対容積	Va	Va＝設計容積－(W＋Cv＋A)＝1000－(177＋112＋45)＝666	666 ℓ/m³
細骨材率	s/a	当工場の実績により	47.3　%
単位細骨材量	Sv	Sv＝ Va × s/a(%) ＝ 666 × 47.3(%) ＝ 315	315 ℓ/m³
	Sv1 Sv2	①Sv1 ＝ Sv × 60(%) ＝ 189 ②Sv2 ＝ Sv × 40(%) ＝ 126	189 ℓ/m³ 126 ℓ/m³
	S1 S2	①S1 ＝ Sv1 × 密度(2.58) ＝ 488 ②S2 ＝ Sv2 × 密度(2.66) ＝ 335	488 kg/m³ 335 kg/m³
単位粗骨材量	Gv	Gv ＝ Va － Sv ＝ 666 － 315 ＝ 351	351 ℓ/m³
	G	G ＝ Gv × 密度(2.64) ＝ 927	927 kg/m³
	G1 G2	①G1 ＝ G × 70(%) ＝ 649 ②G2 ＝ G × 30(%) ＝ 278	649 kg/m³ 278 kg/m³
単位混和剤量	AE	AE＝C×添加率(%)＝340×0.80(%)＝2.72	2.72 kg/m³

配　合　表　kg/m³

セメント	混和材	水	細骨材①	細骨材②	細骨材③	粗骨材①	粗骨材②	粗骨材③	混和剤①	混和剤②
340		177	488	335		649	278		2.72	

水セメント比	52.0　%	水結合材比	%	細骨材率	47.3　%

備考